

薬連ハイライト

「令和7年度都道府県薬剤師連盟SNS担当者会議 ～つなぎなおしミーティング～」を開催！

令和8年2月1日（日）「令和7年度都道府県薬剤師連盟SNS担当者会議」が開催された。

今回の会議の参加者の多くは昨年の参議院議員選挙において各都道府県のSNS担当者として活動いただいた方々であり、本会議はその総括を目的とし、有効であった点、課題であった点の共有と今後の活動方針についての意見交換を目的としたものである。

積極的な意見交換が行われ、実際に出了アイデアを現地で実行（投稿）するなど日常的に活用している参加者だからこそといった会議となった。また、SNSを通じた継続的な連盟活動の必要性和有効性を認識し、実務に向けた良い機会となった。

当日は本田あきこ参議院議員も駆けつけられ、講演の中ではご自身のSNS活用や、連盟活動や支援におけるSNSの重要性についても触れられた。

薬剤師国会議員4人体制に！

令和8年2月8日に投票が行われた第51回衆議院議員総選挙において、大阪7区の渡嘉敷奈緒美氏（得票78,582票、惜敗率89.05%）、京都2区の藤田洋司氏（得票36,891票、惜敗率74.66%）が比例代表近畿ブロックで当選された。自民党に追い風がある中においても大変厳しい選挙戦であったが、大阪府薬連盟、京都府薬連盟を中心に地域の薬剤師連盟から多くの支援をいただくとともに日本薬剤師連盟も日々のサポートを行った。これによって衆参合わせて自民党薬剤師議員が4人体制となった。今後、薬剤師・薬局を取り巻く諸課題の解決に向け、さらなる活躍が期待される。薬剤師連盟会員の皆様に一層のご支援をお願い申し上げたい。



オレンジ日記

新年度にあたり ～次世代へつなぐ国民的議論～

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



桜の便りが次々と聞かれる季節となりました。

年明けから年度を越える前後のこの時期には、梅、桃、桜が温かみある赤みを帯びた花を開き、私たちに春の訪れを感じさせてくれます。

この時期、国会では次年度予算案の審議が中心となります。現下の経済情勢の下での物価高騰・賃上げ対策は急務であり、国際情勢が一層不透明感を増す中で、「強い経済」を実現するための令和7年度補正予算の実効性をさらに加速させるためにも令和8年度予算は重要な意味を持ちます。このため、与党自民党としては常に緊迫した国会運営を円滑化する役割を果たすべく、毎朝9時過ぎに議事堂内の国会対策委員会室に「国対」役員が集まり、衆参両院の「国対」間で連絡を密に取り合っており、私も国対副委員長として参画しています。

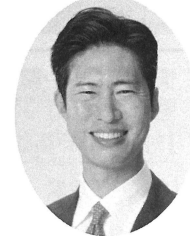
また、高市内閣の下で超党派の「社会保障国民会議」が立ち上がりました。国民の受益と負担に深く関わる「給付付き税額控除」や「食料品の消費税率ゼロ」を含めた「社会保障と税の一体改革」について、国民の皆様にも見える形で、丁寧かつスピード感をもって協議を重ね、令和8年夏前を目途に中間とりまとめが行われる予定です。

党内の税制調査会や社会保障制度調査会での議論に加え、消費税が社会保障の貴重な財源であることの認識を他党とも共有した上で、社会保障や税に関する負担の議論を政争とすることなく、社会保障制度の持続可能性と国民の健康な暮らしが共に確保できる仕組みを構築できるよう、責任政党の一員として議論を尽くしてまいります。

政幸だより

薬局で行う女性の健康支援、 女性にやさしい薬局

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



昨年12月14日、第1回鹿児島県薬剤師会学術大会のシンポジウム「薬局で行う女性の健康支援、女性にやさしい薬局でできることを考えよう」において、緊急避妊薬のスイッチOTC化のこれまでの経緯や、緊急避妊薬販売に係る環境整備のための調査事業の結果、薬機法の改正、自民党厚生労働部会の薬事に関する小委員会での議論等を交えてお話をさせていただきました。オーガナイザーは鹿児島県薬剤師会常務理事の田中孝明先生、座長は田中先生と鹿児島県薬剤師会常務理事の井上真奈美先生がお務めになりました。

鹿児島県では女性の健康問題に関する正しい知識の普及や性差を考慮した医療環境づくり、女性の健康づくりを支援する環境整備を推進するため、女性のニーズに対応した受診・相談しやすい体制の整備など女性の生涯を通じた総合的な健康支援策が展開されています。その一環として、鹿児島県薬剤師会では女性が健康問題について相談しやすい環境を整備するため、女性が抱える様々な健康問題に専門的知識を持って対応する薬局を「女性にやさしい薬局」として推薦し、女性の生涯を通じた健康を支援する取り組みが行われています。

今回のシンポジウムでは私の他に、鹿児島県薬剤師会健康増進委員会委員の丸田沙生先生から「女性の人生に寄り添う薬局をめざして～鹿児島県女性にやさしい薬局としての取り組み～」と、鹿児島市薬剤師会常務理事の町田巨先生から「女性のライフステージを支える漢方薬～漢方相談から見える大切な視点～」についてそれぞれ発表があり、活発な質疑応答が行われました。

「女性にやさしい薬局」という鹿児島県の取り組みに深く感銘を受けました。このような素晴らしい活動が拡がり育つことを願っています。